

I - ③ 6年担任・養護教諭・SCが協働して行うSST授業の実践

ソーシャルスキルと学校適応感、問題行動などとの関連性が指摘されるように、子どもの育ちの中でソーシャルスキルの獲得は大切な課題である。本研究では、学校での子どもたちの様子を一番よく知る担任、子どもを心身両面からサポートする養護教諭、臨床心理学視点から子どもをみるSC、三者が協働し、その時々々の学級のコミュニケーションに関するニーズに沿ったソーシャルスキルトレーニング（以下SST）を計9回行った。その結果、授業前後に行った「自分自身のコミュニケーションに関する意識」調査でポジティブな記述が増え、コミュニケーションの成長が伺えた。これにより、既存のSSTだけではなく、学級ニーズに合わせたSSTを担任・養護教諭・SCの三者が協働し、オーダーメイドのプログラムを実施することの有効性が示唆された。

1 SST授業の様子 ～三者によるインストラクション、教員によるモデリング～



①担任・養護教諭・SCによるインストラクション

②教員同士のロールプレイによるモデリング

2 SST授業の様子 ～安心できる空間でのリハーサル、フィードバック～



①「自分ならこう言う」リハーサルでのイメージ作り

②お互いの意見を尊重しながらのフィードバック

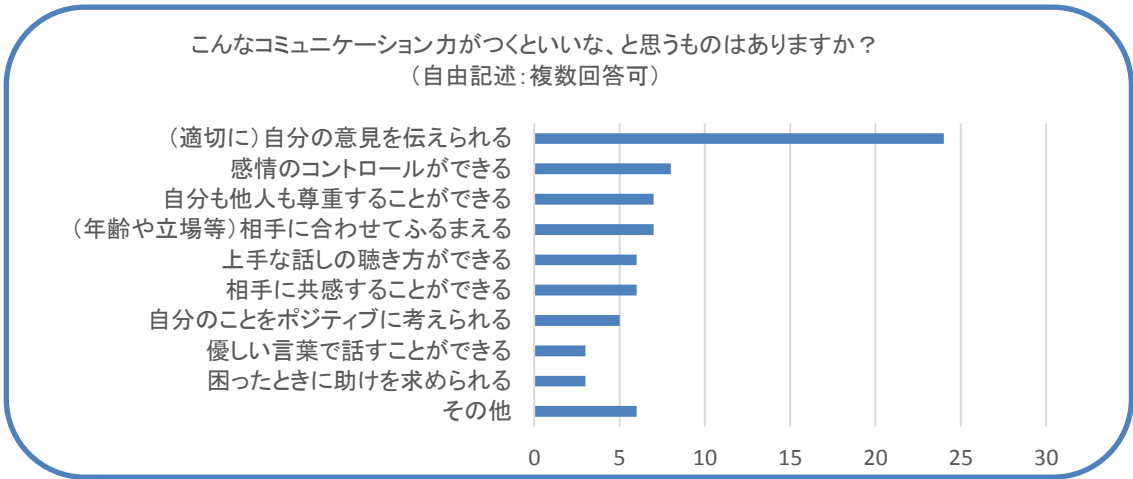


③「やった！とったよ」自分で作ったソーシャルスキル標語を入れたかるたで「かるた大会」

④12月には中学校生活を意識させる取り組みとして、中学校養護教諭をゲストティーチャーに招聘

3 学級・個のニーズに合わせたSSTテーマの決定について

4月に行った「子どものコミュニケーションに関する保護者アンケート」の結果、我が子のコミュニケーションについて「気になる」「少し気になる」と答えた保護者は54%であった。また「こんなコミュニケーション力がつくといいなと思うもの」については、多くの保護者が「(適切に)自分の意見を伝えられる」かと回答し「気持ちの言語化」への関心の高さが伺えた。この結果と担任からのアドバイスをもとに年間テーマを決定した。



月	テーマ	月	テーマ
5月	あったか言葉を身につけよう	11月	考え方のゆがみ(ユガミン)を知り上手に付き合おう
6月	共感力を身につけよう	12月	自分だけのソーシャルスキルかるたを作ろう
7月	アンガーマネジメント	1月	自分の気持ちや問題を知りトラブルに対処しよう
9月	上手な断り方を身につけよう	2月	新生活に活かせるリフレーミングを学ぼう
10月	困ったときの助けの求め方を身につけよう		(全9回)

4 「今、まさに教室で起こっていきそうな」ロールプレイを取り入れた「モデリング」

授業では今日取り上げるスキルについての「インストラクション」を行ない、「モデリング」では教員がそのスキルが必要となる場面をロールプレイで演じた。その際、ロールプレイは日常生活に近く、子どもたちが「自分だったらどうするだろう?」と自分のこととして捉えやすい場面設定をした。「今、まさに教室で起こっていきそうな」問題提起場面にするために、授業の振り返りの際に、担任や養護教諭が場面の提案を行った。9月には、教育実習生がロールプレイを演じ、子どもたちに大変好評だった。



教育実習生によるロールプレイ

5 どんな意見も「否定しない」安心した空間で行われる「リハーサル」

「リハーサル」では問題提起場面において、実際に学んだスキルを使って「言ってみる」「やってみる」を行った。その際、どんな意見も「否定しない」ことを事前に約束した。他児が受け入れにくそうな意見、主題とは少し外れた意見が飛び出した際にも「〇〇くんはそう感じたんだね」「△△さんの視点は面白いね」など、肯定的な言葉で受け止め、子どもたちが安心した空間で発言できるように配慮した。

6 スキルの強化・般化につながるための「フィードバック」

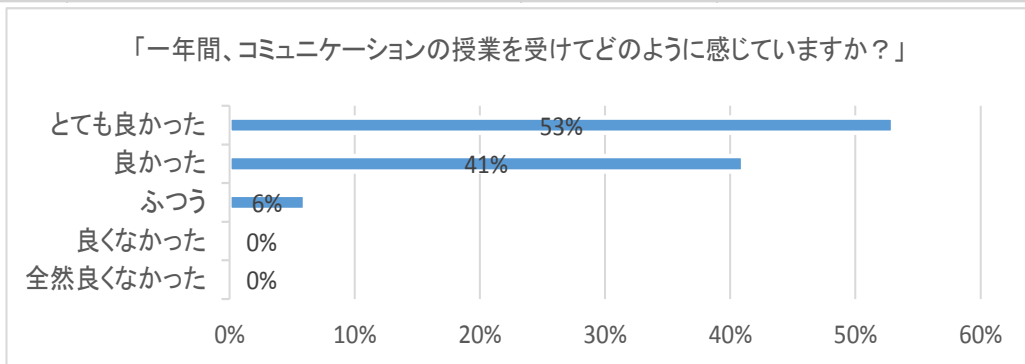
「リハーサル」の内容について、具体的な誉め言葉や新たな気づきを伝え「フィードバック」を行なった。また、授業後には養護教諭やSCが子どもたちのワークシートにお返事コメントを書き、身につけたスキルが持続するように強化を行なった。そして、日常生活の中でも「いまの意見、前にやったSSTを使えてるね」「〇〇のスキルが素敵だね」など、授業内容を振り返る声かけを行ない般化を促した。

7 授業前後の「自分自身のコミュニケーションに関する意識」の変容と、SSTへの児童の感想

授業前後アンケートにおいて「自分自身のコミュニケーションに関する意識」について自由記述形式で回答を求め、KJ法に沿って分類した。分類の結果、授業前後で上位カテゴリーの内容にポジティブな表現が増え、コミュニケーションの成長が見られた。また、授業に関してほとんどの児童が良かったと回答した。

Table1 自分自身のコミュニケーションに関する意識(授業前)		Table2 自分自身のコミュニケーションに関する意識(授業後)	
上位カテゴリー	サブカテゴリー	上位カテゴリー	サブカテゴリー
感情のコントロールができない	怒りの制御(5) 他者への易攻撃性(4) 不快感の表出(3) 頻繁な兄弟げんか(2) 涙の制御(1)	人とうまく関わることができる	関わりへの理解(7) 関わりへの関心(2)
自分の気持ちが言えない	気持ちを伝える困難さ(5) 断る方法(4) 説明力(3) 謝罪(2)	人と関わる具体的な方法が分かる	適切な対応(6) 関わりのコツ(2)
人の気持ちが分からない	他者の気持ちの理解(5) 思いの行き違い(3)	人との関わりを生活の中で活かせる	生活への活用(4) ロールプレイからの学び(3)
人との関わり方が分からない	自他の違い(2) 関係修復の方法(2)	人との関わりから成長できる	関わり方の成長(2) 認知の変容(2) 関わりと人生のつながり(2)
人から助けられる	励まし(7) 援助(4) なぐさめ(2)	自分の気持ちが分かる	自分への理解(2) 関わりへの不安(1)
人の役に立つことができる	感謝(12)	人の気持ちが分かる	他者への理解(2)

※下線部はネガティブな表現



児童になったつもりで・・・養護教諭のSST体験

8 公立小学校へのSST授業提案

養護教諭の自主研修会において、11月に行った「考え方のゆがみ(ユガミン)を知り上手に付き合おう」を本校養護教諭・SCが提案し、市内養護教諭・本校支援員に実際の授業を体験してもらった。

参加者からは「担任・養護教諭・SCがそれぞれの専門性を活かした関わり方をし、子どもに寄り添えていると思う」「SSTだけでなく、否定しない言い方を自分も取り入れたい」「児童が自分を知り、生活を振り返る場となると思う」「自分だけでなく、友達の意見を聞くことでトラブルに対応していけるようになると思う」「子どもやクラスの実態をしっかりと把握した上で実施することが大切だと思った」などの意見が出た。